

宮城県本吉郡南三陸町歌津番所 歌津崎尾崎神社

2015年4月11日～12日

事業の経緯について

世田谷区においては、東日本大震災の被災地である宮城県南三陸町に、震災直後から応援職員を派遣するなどして復興に努めているところであり、特定非営利活動法人「世田谷のみどりと防災を考える会」（以下当会）においても平成25年10月21日の訪問に続き、同町からの要請に基づき平成26年4月18日に町立「ひころの里」の保全のための伐採・支障枝剪定の支援事業を行ってきました。

当会では被災地支援について継続して取り組むことを決定し、同町からの新たな要請である歌津崎尾崎神社の松枯れ対策を平成27年度の事業として実施する事といたしました。

歌津崎先端に位置する尾崎神社周辺は、松の木とリアス式海岸が独特な景観を生み出した風光明媚な景勝地です。しかしながら近年「マツノザイセンチュウ」による「松枯れ病」が拡大し、かつての景観に大きな被害を与えています。

事業の概要について

尾崎神社建築物周辺の松の木が枯損して、倒木により建屋に被害を与える恐れがあるため伐採作業を行います。現場は車両・重機類が進出できず人力での作業になるため、緊急性および危険性の高い枯損木に対する範囲で以下の通り地上部の伐採作業を行います。

クロマツ上部伐採 目通り幹周囲90～180cm 6本

活動の実地について

平成27年4月11日午前4時に世田谷を出発し、常磐自動車道を経由して午前10時過ぎに南三陸町「ひころの里」に到着いたしました。昨年寄贈したアルミ二連梯子を拝借して、午前10時30分に「ひころの里」に到着しました。南三陸町産業振興課農業委員会事務局長 佐久間三津也様、同じく農業振興関係主事 首藤輝久様が現地にお見えになりご挨拶をしたのちに作業を開始いたしました。お昼ころには世田谷総合支所地域振興課防災担当 志村参事が現地へ合流されてお手伝いをいただきました。初日は午後5時まで作業を行い3本の上部伐採を行いました。

二日目12日は8時30分より作業を開始いたしました。正午までにクロマツ3本の上部伐採を完了し、4t車2台程の発生材を場内に集積して無事に作業を終えました。佐久間事務局長と首藤主事に作業完了をご確認いただき、労いの言葉をいただいたあと、二連梯子を「ひころの里」に返却し帰路の途につきました。

今回の南三陸町支援事業では、昨年に引き続き造園業である私達の特殊な技能で支援活動を行うことができました。ただ残念に感じるのはクロマツの上部伐採は危険回避の対処に過ぎず、失われる松林と海岸線の景観保護に役立つ事は出来ません。またこのような機会があれば、今後はクロマツの保護や景観の回復にも努めていきたいと思っています。

東日本大震災から4年以上が経過し、被災地では道路の整備や地盤の造成が急ピッチで進んでいます。しかしながら、一方では今でも被災は住民の方の中で継続をしているという現実です。私達は、今後も自らが有する職能をもって、微力ながらも被災地の復興支援を継続してまいりたいと思います。



南三陸町 歌津崎

歌津崎の先端部、志津川湾の北側を区切るのが歌津崎で、遠くに社殿半島、金華山を望むことができ、通称「尾崎」と呼ばれています。

先端には尾崎神社が祀られており、源義経が奥州に身を移した一八六六年に勧請し、一七〇四年に再興したと伝わります。

参道沿いの黒松は、慶長年間に黒松の苗、種子を浜松から取り寄せ要所に植林されました。

泊漁港から坂上がった高台に灯台があり、そこが泊漁唐船番所跡です。藩政時代に外国船の出入りを監視するために設置されたもので、番人として大坂平太夫が常駐し、代々監視の任にあたりました。

歌津崎は、複雑な岩盤であるためアワビの宝庫であり、昭和三年十一月、昭和天皇の御即位の大礼が京都御所において執り行われた際、歌津名産アワビが献上されました。

### 枝降ろし作業



### 抜倒作業



### 発生材集積状況



### 枯損木伐採その1



施工前



施工後

### 枯損木伐採その2



施工前



施工後

### 枯損木伐採その3



施工前



施工後

### 枯損木伐採その4



施工前



施工後